

熊本大学文学部附属
国際マンガ学教育研究センター

年 報

第 1 号

2022 年度(令和 4 年度)

熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター

はじめに

日本のマンガ・アニメは現在、国内だけでなく海外からの関心も高く、一般の美術館や博物館でもマンガ・アニメを主題とする特別展等の開催や、地域活性化の起爆剤としての活用も目立つなど、社会的な利活用需要は急速に高まっています。本センターは、熊本大学文学部がこれまで蓄積してきた教育研究資源を発展させ、マンガ・アニメを含む現代文化資源の収集・保存・活用と国際的な研究拠点の構築を目的として、2022年（令和4年）10月に設立されました。

センターの中核業務の一つ目が、約50万点ともいわれるマンガ資料の網羅的な収集・整理（アーカイブ化）を行い、しっかりとした研究基盤・基礎を構築し、それらを活かした研究成果を国内外に積極的かつ持続的に発信するとともに、国際的な教育研究連携を進めることです。さらに、構築するアーカイブを基礎に、京都国際マンガミュージアムや北九州市漫画ミュージアム、明治大学米沢嘉博記念図書館などの関連する専門教育研究機関と連携し、マンガ資料のアーカイブ・ネットワーク構築を牽引し、全国的な利活用基盤を整え、国内外の幅広い皆さまに日本のマンガ・アニメ文化に触れていただきたいと考えています。

二つ目が、マンガやアニメを含む、現代文化資源に関する研究開発人材の育成です。2019年4月に熊本大学文学部ではコミュニケーション情報学科に、マンガやアニメを含む、現代文化資源を専門的に研究できる「現代文化資源学コース」を設置し、より専門的な研究を推し進めたいという需要に応えるため、大学院社会文化科学教育部に2023年4月には現代文化資源学研究に関する博士前期課程のコースを設けました。さらに、2025年4月には高度専門人材を育成する博士後期課程コースを設け、本センターで育った研究者が世界中の教育研究機関で活躍できるようにする所存です。

三つ目が、マンガ・アニメ等のコンテンツを利用した地域活性化（観光振興・産業創出）の支援です。全国的に関心が高まる中でも、熊本県は「マンガ県くまもと」を標榜し、コンテンツを利用した地域活性化に積極的に取り組んでいます。2021年10月には、熊本日日新聞社、熊本大学、熊本県が中心となり、県内の自治体、大学、企業など54団体が参加し「くまもとマンガ協議会」が正式に発足しました。本センターは、こうしたマンガ・アニメ等のコンテンツを活用した地域振興が持続的なものとなるよう、専門的な知見を提供するとともに、役に立つ高度専門人材を育成し、地域振興のモデルを創っていきたいと考えています。

今後とも、本センターは社会のニーズに応え、積極的に活動を展開していきますので、ご支援・ご協力、よろしくお願いいたします。

2023年3月31日

熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター長
水元 豊文



熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センターの授業活用風景



熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター 開設記念シンポジウム
「マンガ刊本アーカイブのめざすもの」(2022年12月10日)

目 次

はじめに	1
1. 熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター関連規則と組織	4
2. 年間活動記録	8
3. 年間活動報告	12
(1) 文学部附属国際マンガ学教育研究センターの開設	12
(2) 研究活動	12
(3) 広報活動	13
(4) 展覧会・講演会・地域貢献など	14
4. センター教員の年間活動	17

1. 熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター関連規則と組織

熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター規則

(令和4年7月20日規則第134号)

(趣旨)

第1条 この規則は、熊本大学学則(平成16年4月1日制定)第8条第2項の規定に基づき、熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター(以下「センター」という。)に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、日本のマンガ、アニメ等の現代文化資源の分野(以下「現代文化資源学」という。)における国際的研究拠点として、研究成果の国内外への発信、研究開発人材の育成及びマンガをはじめとする現代文化資料群のアーカイブ化を行い、もって現代文化資源学の教育研究の充実発展及び現代文化資源を活用した地域活性化に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 現代文化資源学の国際共同研究に関すること。
- (2) 現代文化資源学の研究成果の発表に関すること。
- (3) 現代文化資源学の研究資源の収集、整理及び公開に関すること。
- (4) 現代文化資源学の研究成果に基づく地域・社会貢献に関すること。
- (5) 現代文化資源学の発展に寄与する人材の育成に関すること。
- (6) その他センターの目的を達成するために必要な事項

(部門)

第4条 センターに、次に掲げる領域を置く。

- (1) 国際マンガ研究領域
- (2) マンガ刊本アーカイブ領域

(職員)

第5条 センターに、次に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 兼務教員
- (3) その他必要な職員

(センター長)

第6条 センター長の選考は、大学院人文社会科学研究部の専任の教授であって、文学部の教育を担当するもののうちから、文学部教授会の議に基づき、学長が行う。

- 2 センター長は、センターの業務を総括する。
- 3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 センター長に欠員が生じた場合の補欠のセンター長の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

(兼務教員)

第7条 兼務教員は、大学院人文社会科学研究部の専任の教員であって、文学部の教育を担当するもののうちから、文学部長が任命する。

- 2 兼務教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 3 兼務教員に欠員が生じた場合の補欠の兼務教員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

(領域長)

第8条 各領域に領域長を置き、兼務教員のうちからセンター長が指名する者をもって充てる。

- 2 領域長は、領域の業務を総括する。

(委員会の設置)

第9条 センターの管理運営に関する事項を審議するため、熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(委員会の組織)

第10条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
 - (2) 文学部長
 - (3) 文学部副学部長
 - (4) 兼務教員
 - (5) その他委員長が必要と認めた者 若干人
- 2 前項第5号の委員は、文学部長が委嘱する。
 - 3 第1項第5号の委員の任期は、文学部長が委嘱の都度定めるものとし、再任を妨げない。

(委員会の審議事項)

第11条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの業務に関すること。
- (2) センターの施設及び予算に関すること。
- (3) その他センターの管理運営に関すること。

(委員長)

第12条 委員会に、委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第13条 委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 議長は、センターに関する重要事項については、文学部教授会に諮るものとする。
(意見の聴取)

第14条 委員長は、必要があるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第15条 センター及び委員会の事務は、教育研究支援部人社・教育系事務課において処理する。

(雑則)

第16条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

1 この規則は、令和4年10月1日から施行する。

2 この規則施行後、最初に任命されるセンター長及び兼務教員の任期は、第6条第3項及び第7条第2項の規定にかかわらず、令和5年3月31日までとする。

熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター運営委員会

センター長	水元 豊文 教授
文学部副学部長	伊藤 正彦 教授
文学部副学部長	中川 輝彦 教授
兼務教員	日高 利泰 准教授
兼務教員	鈴木 寛之 准教授
委員	池川 佳宏 特定事業研究員

熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター組織

センター長 水元 豊文 教授

国際マンガ研究領域

日高 利泰 准教授

マンガ刊本アーカイブ領域

鈴木 寛之 准教授

池川 佳宏 特定事業研究員

2. 年間活動記録

2022/ 9/28	■熊本日日新聞取材	(日高・池川) →9/29 熊本日日新聞掲載
10/1	■文学部附属国際マンガ学教育研究センター開設	
10/3	■第1回センター運営委員会	(運営委員)
10/4	■トリニティワークス宮田氏打ち合わせ (システム開発)	(池川)
10/5	■センター記者会見、センター内新聞テレビ局取材 (県内メディア各社)	(水元・鈴木・日高・池川) →当日各局テレビ放映、翌日各種新聞掲載
10/6	■現代文化資源学実習Bでセンター活用	(鈴木・池川)
10/7	■コネクテッド理事三原氏、DNP 前沢氏来訪	(鈴木・日高・池川)
10/11	□くまもとマンガ協議会 勉強会参加	(鈴木・日高・池川)
10/13	■現代文化資源学実習Bでセンター活用、KKT 取材	(日高・池川) →当日 10/8KKT 放送
10/13	○文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進事業 中間報告会	(鈴木・池川)
10/14	○文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進事業 第4回マンガアーカイブ協議会	(鈴木・日高・池川)
10/17	■熊本日日新聞取材	(水元・池川) →熊本日日新聞 10/28 掲載
10/18	■マンガ県くまもと広報(肥後ジャーナル)取材	(池川) →当日 twitter に掲載
10/19	■トリニティワークス宮田氏打ち合わせ	(池川)
10/20	■毎日新聞西部版取材	(水元・池川) →毎日新聞西部版 11/7 掲載
10/20	■熊大通信取材	(水元・池川) →熊大通信 2022/1 掲載
10/20	□熊本日日新聞マンガ文化賞授賞式	(水元・鈴木・日高・池川)
10/21	■京都精華大学 小川氏来訪・打ち合わせ	(池川)
10/24	■共同通信電話取材	(日高) →共同通信(熊日) 11/23 掲載

10/25	■国際戦略課 打ち合わせ	(池川)
10/28	■(株)CONTORNO 来訪	(水元・池川)
11/1	■システム登録作業単行本 3000 冊搬入	(鈴木・日高・池川)
11/6	□くまフェス「原作マンガヒット SHOW」 登壇	(日高)
11/7	■熊日すばいす取材	(日高)→熊日すばいす 11/28(web)、12/2(紙面)掲載
11/8	□くまもとマンガ協議会 勉強会参加	(鈴木・日高・池川)
11/10	■キャンパスミュージアムヒアリング	(池川)
11/17	■現代文化資源学実習 B でセンター活用、 国際戦略課海外向け英語版取材・動画撮影	(日高・池川) →2023/3/27 熊大サイト公開
11/17	■熊大ホームページでシンポジウムのリリ ース公開・参加登録受付	
11/22	■第 2 回センター運営委員会	(運営委員)
11/22	■ソフトシンク打ち合わせ(センターホー ムページ制作)	(日高・池川)
11/24	■BT connect 中村氏打ち合わせ(段ボール 開発)	(池川)
12/8	■2 限現代文化資源学実習 B でセンター活 用、KAB 取材	(日高・池川) →12/15KAB 放送
12/9	■日本経済新聞取材	(水元・池川)→2023/1/29 日曜版掲載、Web 版 2/5 掲載
12/10	○文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進 事業 第 5 回マンガアーカイブ協議会	(鈴木・日高・池川)
12/10	■開設記念シンポジウム「マンガ刊本アー カイブのめざすもの」開催 (県内メディア 各社取材)	(水元・鈴木・日高・池川) →テレビ、新聞など 6 社記事
12/11	○文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進 事業 第 4 回マンガ刊本 AC 設置委員会	(鈴木・日高・池川)
12/12	■社会連携課熊本創生推進機構イノベーシ ョン推進部門打ち合わせ	(水元・鈴木・日高・池川)
12/13	□くまもとマンガ協議会 勉強会参加	(鈴木・日高)
12/16	■BT connect 中村氏打ち合わせ(段ボール 開発)	(池川)

12/23	■イノベーション推進部門・弁理士打ち合わせ	(池川)
12/23	■読売新聞熊本版取材	(日高・池川)→読売新聞熊本版 2023/1/3 掲載
12/27	■第2回湯前町まがのまちづくりアドバイザー会議出席	(鈴木・池川)
2023/1/7 ~9	■筑紫女学園大城教授、大分大学長池教授 来訪	(池川)
1/10	□くまもとマンガ協議会 勉強会参加	(鈴木・池川)
1/12	■BT connect 中村氏打ち合わせ(段ボール 開発)	(水元・鈴木・日高・池川)
1/17	○文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進 事業 MANGA sessions 収録	(池川) →文化庁 MACC 2/21 公開
1/20・21	○文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進 事業 データベースミーティング	(鈴木・池川)
1/27	■工学部井原教授、勝田准教授ミーティン グ	(水元・鈴木・日高・池川)
1/27	■熊本大学同友会講演	(水元・池川)
2/1	○文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進 事業 第5回マンガ刊本 AC 設置委員会	(鈴木・日高・池川)
2/1	○文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進 事業 第6回マンガアーカイブ協議会	(鈴木・日高・池川)
2/2	■NHK 熊本 打ち合わせ	(水元・日高・池川)
2/3	■トリニティーワークス宮田氏打ち合わせ	(池川)
2/5	○明治大学米沢嘉博記念図書館 ヤマダ氏 打ち合わせ	(池川)
2/6・7	○少女まんが館 打ち合わせ	(池川)
2/14	□くまもとマンガ協議会 勉強会参加	(鈴木・日高・池川)
2/20	○文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進 事業 最終報告会	(鈴木・池川)
2/27	■第3回センター運営委員会	(運営委員)
2/28	■五高記念館打ち合わせ	(鈴木・日高・池川)
2/28	■県立高森高校山中校長、緒方教諭、県庁永 田指導主事来訪	(水元・鈴木・日高・池川)
3/1	■トリニティーワークス宮田氏打ち合わせ	(池川)

3/3～24	■センター内にて、単行本システム登録作業実施	(池川)
3/7	■法政大学増渕教授来訪	(鈴木・日高・池川)
3/9	■トリニティーワークス宮田氏打ち合わせ	(池川)
3/10	■札幌市中央図書館 浅野課長、皿井氏、坂東氏来訪	(鈴木・日高・池川)
3/14	□くまもとマンガ協議会 勉強会	(鈴木・日高・池川)
3/23	■トリニティーワークス宮田氏打ち合わせ (納品)	(池川)
3/28	■文学部附属国際マンガ学教育センター ホームページ公開	熊本大学文学部サイト内公開

■はセンター活動、□はくまもとマンガ協議会活動、○は連携する文化庁事業活動

3. 年間活動報告

(1) 文学部附属国際マンガ学研究センターの開設

熊本大学は、予測困難な 2030 年を見据えて、「教育」、「研究」、「社会との共創・医療」の 3 つの戦略に基づく取組を実行することにより、“地域と世界に開かれ、共創を通じて社会に貢献する教育研究拠点大学”を目指している。並行して 2021 年に産学官連携による「マンガ県くまもと」構想に参画し、また 2023 年 4 月からメディア芸術・現代文化研究をリードする研究教育拠点の構築として、大学院社会文化科学教育部（博士前期課程）文化学専攻に、「現代文化資源学研究コース」を設置する。

これらの背景から、人文社会科学分野での国際的研究と地域貢献を前進させるため、2022 年 10 月 1 日付けで、文学部附属国際マンガ学教育研究センターを開設した。本センターは、日本のマンガ・アニメ等の現代文化資源の分野における国際的研究拠点として、研究成果の国内外への発信(研究)、研究開発人材の育成(教育)、マンガをはじめとする現代文化資料群のアーカイブ化(社会貢献)を行い、現代文化資源学の教育研究の充実発展及び現代文化資源を活用した地域活性化に寄与することを目的としている。

開設後、2022 年 10 月 5 日の熊本大学定例学長記者懇談会にて説明を行ったほか、本センター内で記者会見当日に新聞社・テレビ局など熊本県内マスコミ各社による取材を受け、当日または翌日に本センターについて報道された。

(2) 研究活動

1) マンガ刊本書誌管理・所蔵登録システムの開発、機能検証

「刊本」と呼ばれるマンガ冊子の単行本・雑誌のアーカイブを進めるにあたり、マンガに適した所蔵管理システムについて研究開発を行った。2022 年度は単行本の所蔵管理システムを開発し、熊本ゆかり作家を含むマンガ単行本 3,344 冊を対象とし、システム導入による効果について検証した。

【単行本所蔵管理システムの概要】

一般的な図書と異なり、マンガ単行本には「巻次の長大化」「同作品のバージョン違いの多さ」といった特徴があり、メタデータ(管理項目)やその入力方法がやや異なる部分がある。マンガ単行本の書誌データについて、2022 年時点で公開されている文化庁メディア芸術データベース(ベータ版)の単行本データセットを活用し、メタデータの特徴とデータ素材を活かし、大量の単行本について詳細な目録作成と簡便な所蔵管理が行える登録システムの開発を行った。

【特徴的な機能と検証】

ISBN による書誌同定に特化し、バーコードリーダーの読み込みまたは ISBN リスト投入

からの自動目録作成をシステム化した。マンガ単行本のうち、ISBN バーコードのあるもの、ISBN はあるがバーコードのないもの、ISBN がない 1882 年以前発行のもの、と 3 種類のパターンに分類し、それぞれの作業効率を検証した。

作業時間累計 32 時間で、マンガ単行本 2,135 件(冊)の所蔵登録を行い、1 冊あたり 1 分未満での詳細な書誌入力を実現した。登録内容は出力機能によって Excel シート化し、目録リストを作成した。目録の作成はひきつづき実施する。

2) マンガ刊本の一部寄贈受け入れ

・熊本ゆかり作家を含むマンガ単行本 3,344 冊(NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクトより)

・『こちら葛飾区亀有公園前派出所』秋本治・集英社ジャンプコミックス版全 200 巻(赤星敦氏より)

・『花とゆめ』を中心に少女マンガ雑誌約 500 冊(寄贈)

・海外マンガ出版資料 20 箱(寄贈 夏目房之介氏より)

・海外研究書 3 冊 (寄贈 株式会社公文教育研究会より)

保管場所の課題から、寄贈受け入れについては限定しており、収集方針の策定とともに検討中。

(3) 広報活動

1) 前述の本センター開設時の定例学長記者懇談会(10 月 5 日)、後述の開設記念シンポジウム(12 月 10 日)への熊本県内の各種マスコミ取材のほか、下記 9 件の取材を受け、各媒体で発信された。

・2022 年 9 月 29 日、『熊本日日新聞』掲載

・2022 年 10 月 18 日、マンガ県くまもと広報 Twitter 掲載

・2022 年 10 月 28 日、『熊本日日新聞』掲載

・2022 年 11 月 7 日、『毎日新聞西部版』掲載

・2022 年 11 月 23 日、『熊本日日新聞』(共同通信配信記事)掲載

・2022 年 11 月 28 日(Web 版)・12 月 2 日(紙面)、『熊日すばいす』掲載

・2022 年 12 月 15 日、KAB 放送

・2023 年 1 月 3 日、『読売新聞熊本版』掲載

・2023 年 1 月 29 日(紙面)・2 月 5 日(Web 版)、『日本経済新聞日曜版』掲載

2) 熊本大学の広報媒体では、下記の取材を受け熊本大学より発信された。

・「未来をつなぐ。-熊本大学と SDGs-」記事内センター写真取材と水元センター長コメント (熊本大学広報誌『熊大通信』、2-3p、2023 年 Winer(1 月) vol.87 発行)

・「Introduction to Kumamoto University 2023」海外向けセンター紹介と学生インタビュー動画（熊本大学英語版ホームページ及び熊本大学公式 YouTube チャンネル、2023 年 3 月 27 日公開 https://www.youtube.com/watch?v=RQIx3r9_tOI）

3) 文学部附属国際マンガ学教育研究センターホームページの開設
2023 年 3 月末に本センターホームページを開設し、活動報告エントリーを掲載した。また、問い合わせ窓口フォームを作成し、公式の問い合わせ受付を開始した。

URL: <https://www.let.kumamoto-u.ac.jp/manga/>

(4) 展覧会・講演会・地域貢献など

1) センター開設記念シンポジウムの開催

本センターの開設記念企画として、2022 年 12 月 10 日に熊本大学内にてシンポジウム「マンガ刊本アーカイブのめざすもの」を開催した。センター教員とマンガ関連アーカイブ施設関係者が登壇し、第一部「国際マンガ学教育研究センターの展望」では本センターが計画する刊本アーカイブがめざす内容とその意義について、第二部「『刊本』と『原画』両アーカイブのさらなる連携に向けて」では日本各地のマンガ関連アーカイブ施設で展開されている刊本と原画の展示企画の事例などについてパネルディスカッションを行った。

【日時】2022 年 12 月 10 日（土） 14:00～16:30（開場 13:30）

【場所】熊本大学黒髪北地区 文法学部本館 2 階「A1 講義室」

【主催】熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター

【協力】文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進事業 / くまもとマンガ協議会

【プログラム】

14:00 開会挨拶 小川 久雄 熊本大学学長

14:05 趣旨説明 鈴木 寛之 熊本大学大学院人文社会科学研究部准教授

14:15 パネルディスカッション（第一部）「国際マンガ学教育研究センターの展望」

吉村 和真 京都精華大学専務理事／マンガ学部教授 *司会進行

水元 豊文 熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター長／文学部長

日高 利泰 熊本大学大学院人文社会科学研究部准教授

橋本 博 NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクト代表／合志マンガミュージアム 館長

15:00 ～休憩～

15:15 パネルディスカッション（第二部）「『刊本』と『原画』両アーカイブのさらなる連携へ向けて」

池川 佳宏 熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター特定事業研究員 *
司会進行

イトウユウ 京都精華大学国際マンガ研究センター特任准教授

大石 卓 横手市増田まんが美術館 館長

ヤマダトモコ 明治大学米沢嘉博記念図書館 展示スタッフ(ビデオ出演)

表 智之 北九州市漫画ミュージアム 専門研究員

16:25 閉会挨拶

司会 鈴木 寛之 熊本大学大学院人文社会科学部 准教授

【参加】参加費無料、フォームから事前予約制(定員 120 名)

参加者は 96 人、登壇者やスタッフ、取材を含めて計約 120 人の参加があり、テレビ局 (TKU、KAB)、熊本日日新聞社、日本経済新聞、くまもと経済新聞、マンガ県くまもと広報 (肥後ジャーナル)の取材を受け、後日報道された。

小川学長による開会挨拶のあと、第一部では、これまでの NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクトなどの熊本県内でのマンガ刊本についての取り組みと、「くまもとマンガ協議会」設立を経た本センターの位置づけと役割、マンガ学の拠点として必要不可欠である本センターが収集するマンガ刊本アーカイブについて、登壇者の各報告を受けて語り合った。

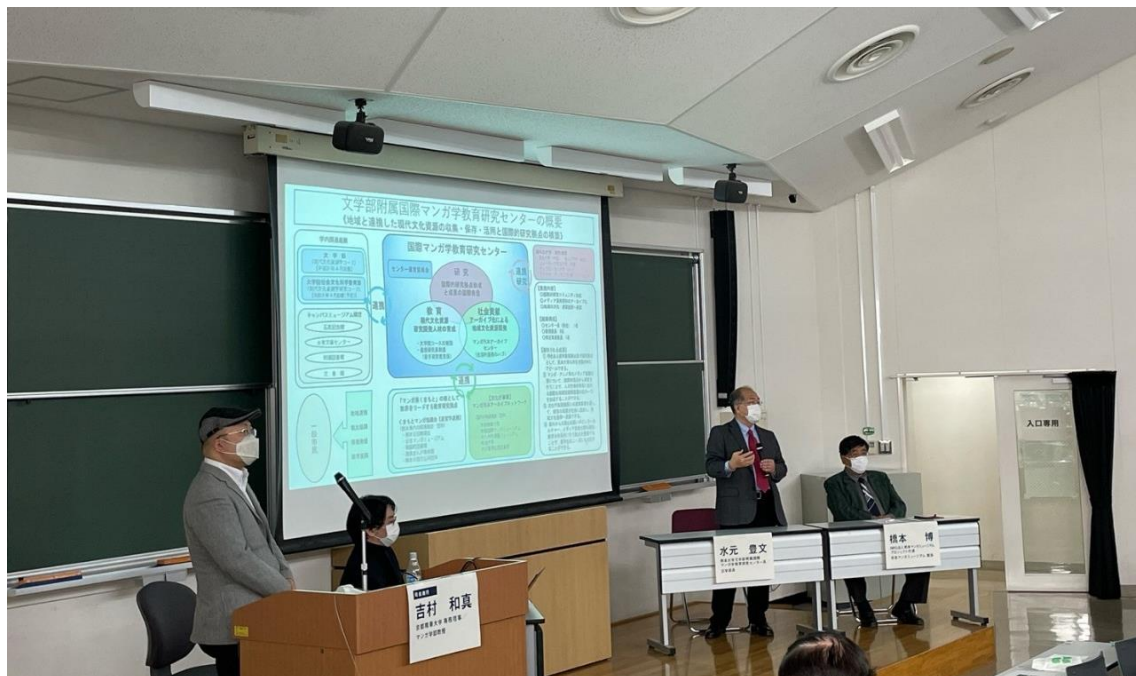
第二部では、いずれも重要なマンガ資料である「原画」と「刊本」について、熊本県内(合志マンガミュージアム・湯前まんが美術館)での活用事例、明治大学米沢嘉博記念図書館、京都国際マンガミュージアム、横手市増田まんが美術館、北九州市漫画ミュージアム各アーカイブ施設の特徴に応じた活用事例を発表し、各施設の原画と刊本をつなぐデータベースの必要性などをディスカッションした。また、参加者からは活発な質疑応答がみられた。

2) 「くまもとマンガ協議会」での取り組み

・熊本日日新聞社主催「第 1 回熊日マンガ文化賞」の選考協力をセンター教員が行い、2022 年 10 月 6 日に「尾田栄一郎氏と株式会社集英社」の受賞が発表された。授賞式は 10 月 20 日に開催され、小川学長が挨拶を行った。

・「くまもとマンガ協議会」の月例勉強会へセンター教員が参加し、「クリエイター交流会」など各ワーキンググループへの参加と進行補助などを行った。

熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター 開設記念シンポジウム
「マンガ刊本アーカイブのめざすもの」(2022年12月10日)



第1部 「国際マンガ学教育研究センターの展望」



第2部 「『刊本』と『原画』両アーカイブのさらなる連携へ向けて」

3.センター教員の年間活動(2022年10月～)

鈴木寛之

各種委員

- ・令和4年度 文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進事業 分野別強化事業「マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究」コーディネーター
- ・株式会社こうし未来研究所 顧問（合志マンガミュージアム運営協力）
- ・湯前町まんがのまちづくりアドバイザー会議 委員
- ・熊本博物館協議会 副会長
- ・菊地市 菊之城跡史跡調査検討委員会 委員
- ・NPO 法人 熊本マンガミュージアムプロジェクト 副代表

日高利泰

各種委員

- ・令和4年度 文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進事業 分野別強化事業「マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究」マンガ刊本アーカイブ設置準備委員会メンバー
- ・日本マンガ学会理事

池川佳宏（特定事業研究員）

各種委員

- ・令和4年度 文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進事業 分野別強化事業「マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究」マンガ刊本アーカイブ設置準備委員会メンバー
- ・令和4年度 同事業「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」マニュアル部会メンバー
- ・日本マンガ学会理事

講演

- ・「マンガを『お宝』にする」、熊本大学同友会、2023年1月27日、ホテルメルパルク熊本
- ・「大学がアーカイブに取り組むということ」、文化庁主催【MAGMA sessions2022】オンライントークセッション、2023年2月21日公開、Web サイト「MACC」にて公開
<https://macc.bunka.go.jp/766/>

奥付

熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター年報
第1号(2022年度)

発行日: 2023年3月31日

発行者: 熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター

860-8555

熊本県熊本市中央区黒髪 2-40-1

熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター

TEL 096-342-2306

MAIL mangarc@kumamoto-u.ac.jp

ホームページ

<https://www.let.kumamoto-u.ac.jp/manga/>